

令和6年度

第2回大垣市社会教育委員の会 議事録

日時	令和6年7月16日(火) 10:00~11:05
場所	奥の細道むすびの地記念館 多目的室1
次第	1 開会のことば 2 「大垣市民の誓い」朗読 3 教育長あいさつ 4 議事 (1) 奥の細道むすびの地記念館について (2) 意見交流 「地域、学校、家庭をつなぐ社会教育のあり方」 ～ウェルビーイングの実現に向けた人、地域のつながりづくり～ ・地域の文化と地域施設を活かし、郷土に誇りをもった人材育成を行う には (3) 第1回教育振興基本計画社会教育分野策定委員会 5 連絡事項 6 閉会のことば
出席者	【大垣市社会教育委員7名、事務局10名、計18名】 ・大垣市社会教育委員 竹中 昌子、稲川 明子、平野 宏司、安藤 千博、井上 徹子、松野 光宏、 桑原 昌子 ・事務局 細江 敦(教育長)、平松 善幸(事務局長)、鈴木 元(文化振興課長)、 林 昭義(社会教育スポーツ課長)、小倉 伸子(社会教育スポーツ課参事)、 大橋 昭彦(文化振興課主幹)、田中 真貴(社会教育スポーツ課主幹)、 堀 佳奈(社会教育スポーツ課主事)、澤田 文彦(社会教育指導員)
傍聴者	【1名】
事務局	開会のことば
全員	「大垣市民の誓い」朗読

教育長	<p>教育長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校はもうすぐ夏休みであり、この1学期は昨年と違い、コロナも明け、修学旅行や運動会が制限なく行われ、学校の教育活動も熱気が戻ってきている。夏休みも、各地域で実施される社会教育事業に子どもも参加していくと思われる。それに合わせて、社会教育の活動も一層活発になると思われる。 ・ 奥の細道むすびの地記念館の企画展「芭蕉さんの姿」を見学した。この後、文化振興課からは、記念館の現状や施設を活用した事業について説明させていただく。 ・ こうした社会教育施設を活かした学びを通じた人づくり、つながりづくり、地域づくりが重要である。それぞれの地域で、受け継いでいかなければならない歴史や文化がある中で、地域課題の解決にどのようにつなげていくかをご提言いただきたい。 ・ 今日は、第2次教育振興基本計画の社会教育分野の策定委員会も兼ねている。令和2年から令和11年の10年間の計画施行期間のうち、5年ごとに見直しをすることになっている。こちらについても忌憚のないご意見をいただきたい。
事務局	<p>以下の議事については、平野議長に進行をお願いします。</p>
議長	<p>※ 審議会公開の報告 ※ 傍聴人の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議題（1）「奥の細道むすびの地記念館について」活動実績や、施設を活用した地域・学校との連携事業例について説明をお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度奥の細道むすびの地記念館入館実績について述べる。全体入館者数は、令和4年度よりは増えているが、コロナ前の平成30年に比べると8割程度回復している。芭蕉館、先賢館の入館者数は令和4年度より微減であり、コロナ前より6割程度の回復状況である。入館者の住所地は、中部地方が最も多く56.4%であり、次いで近畿、関東地方となっている。入館者の年代は、50代以上が多く、約5割である。 ・ 令和5年度事業実績について報告する。俳句文化振興事業の「こども俳句教室」「英語俳句教室」、初心者向け「三尺俳句教室」俳句愛好者の交流の場「おおがき芭蕉交流句会」を実施し、多くの参加者があった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内小学校 6 年生を対象としている「ふるさと魅力体験事業」として、奥の細道むすびの地記念館を見学した学校は 22 校中 19 校であった。 ・ 展示事業のうち、第 36 回企画展「飯沼慾齋から牧野富太郎へ～植物へのまなざし～」では、初めて子ども向けの講座「植物観察講座」を行った。この企画展の告知では、大垣工業高校の放送部に依頼して告知用動画を制作し、YouTube で公開した。NHK連続テレビ小説「らんまん」のパネル展も開催した。企画事業として、「おおがき芭蕉大学」や「おおがき先賢大学」などで、全国有数の研究者を招いて講座を開いた。 ・ 令和 6 年度の事業計画として、俳句文化振興事業は、今年度も子どもや初心者向けに俳句を楽しむための教室を開催する予定である。「ふるさと魅力体験事業」もふるさと大垣への愛着を深めるため、市内 6 年生対象に奥の細道むすびの地記念館見学を実施する。企画展は年 3 回行うが、3 回目の第 40 回企画展は、芭蕉生誕 380 年記念事業として実施する。企画事業としての「芭蕉大学」「先賢大学」もそれぞれ年 3 回行い、総合監修者講演会を 11 月に実施する予定である。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ここまでの内容で、質問や意見を伺う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入館者の年代の数に、学校として入館している児童生徒数はカウントされているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校など団体で来館する入館者もカウントしている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後若い世代の入館者数を増やす取組は何か考えているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 50 代以上が半分を占めているので、若い人の来館を増やすために、大垣工業高校の生徒に協力を得るなどしている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 俳句教室や企画展でアンケートをとったり、感想を聞いたりしているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室等では、アンケートはとっていないが、入館者からはアンケートをとっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画展や常設展についても総合監修者の佐藤教授が企画したり監修したりしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常設展については、佐藤教授以外の総合監修者もあり、2 人の総合監修者で企画していただいた。企画展は学芸員が企画をし、佐藤教授に指導を受けながら、事業を進めている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ふるさと魅力体験事業」は、すべての学校が体験していないのはなぜか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奥の細道むすびの地記念館か昼飯大塚古墳を選択して、体験していただいているためである。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題(2) 意見交流に入る。 「地域、学校、家庭をつなぐ社会教育のあり方」～ウェルビーイングの実現に向けた人・地域のつながりづくり～というテーマのもと意見をいただきたい。地域の文化と地域施設を活かし、郷土に誇りをもった人材育成を行うために、現在の社会教育施設の活用状況を聞いた上で、それぞれの立場からご意見を願います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ふるさと魅力体験事業」はとても魅力的な事業であり、そういった機会 で社会教育施設を利用させていただくことが子どもたちにとって、とても 有意義である。子どもたちは目を輝かせて展示物を見たり、学芸員の話 を聞いたりして、新しい知識を身に付けている。また、水門川沿いを歩き ながら、たくさん褒めていただくことで、楽しく俳句を作ることができる。 課題としては、大人になっても俳句の楽しさを思い出し、大垣への愛着を もち続けること。今後こうした活動を続けていき、俳句を通して大垣の よさを子どもたちに伝えていけるとよい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニティの一端を担う社会教育施設として、どんな役割が必要 か、今日の奥の細道むすびの地記念館の見学や施設の事業報告等を聞いて、 どんな感想を持ったかでもよいので意見を伺いたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未就学児のかかわりが少ないように感じる。若い世代への周知の仕方を考 えないといけない。また、横のつながりが弱いため、同世代の参加状況や 事業の内容がわからない。子育て世代は、ベビーカーや自転車での移動が 多いが、大垣は平坦な道が多く、ベビーカー等でも移動がしやすいという 声を聞く。こういったこともアピールして、大垣のよさが若い世代にも伝 わっていく情報の発信をしていけるとよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 俳句やこういった施設での講座は、どうしても高齢者の参加が多くなる。 俳句に対する興味を持てるのは、子育てから手が離れた世代に限られてく るのは仕方がない。インスタ等で若い世代に情報発信するという方法もあ

	<p>るが、俳句に興味をもてる世代ではないので、ターゲットを高齢者に絞ってPRするとよいのではないか。小学校時代に慣れ親しんだ俳句も年齢が上がるにつれて、興味がうすれていく。中高生や20代にも俳句文化に慣れ親しんでいただくためにも、若い人が使い慣れているSNSの活用を考えたい。</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 50代以上へのPRには、何かよい方法があるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 50代でもスマホを使用している人は多いと思うので、SNS発信もよいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひまわり畑の運営とともに、俳句教室もやっているが、子どもはなかなか集まってこない。子どもへのPRの仕方を考えないといけない。学校にも協力していただきながら、広報等、市への協力も求めていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひまわりの花が終わったら種ができるので、それを市民に分け与えてもいいのではないか。夏休みに植物採集の講座を受講しとても楽しかったし、家庭でも自分の趣味として取り組んでいる。子どもの頃の体験は、長い人生の中で役に立つことがある。小学校の百人一首クラブで講師をしていたことがあるが、なかなか自分の思いを表現できなかった子が、最後に感謝の言葉を述べてくれた経験がある。活動中は何も言わなくても、楽しいと感じてくれていたと伝わった。大垣は俳句のまちとして、日頃俳句に親しんでいるが、今後もっと俳句を大事にしていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ やはり広報の仕方を考えていかないといけない。HPを見る人もいるし、若い人はSNSの利用が多い。地道にPRしていくしかない。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育施設の市民の活用にかかわって多くの意見を頂戴することができた。以上で議事の全てを終了する。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以上をもって、第2回大垣市社会教育委員の会を閉会する。